

気候科学と古気候プロキシ研究の接点創出

- 11:00-11:30 植田宏昭 (筑波大) 様々な時代のアジアモンスーン変動の統合化
11:30-11:35 中川毅 (立命館大) 古気候学がもたらすエビデンス：定説でない話を中心に
11:35-12:15 北場育子 (立命館大) 宇宙線は地球を冷やせるか？

昼食

- 13:30-14:10 長谷川精 (高知大) 白亜紀温室期の気候：氷床はどこまで必要か？
14:10-14:50 三宅芙沙 (名大) 宇宙線生成核種¹⁴C、¹⁰Beから探る過去の太陽活動

休憩

- 15:00-15:40 塩竈秀夫 (国環研) 産業革命以降と将来の気候変動-古気候研究との関連も含めて-
15:40-16:20 多田隆治 (東大) 不安定氷床と短周期気候変動
16:20-16:40 総合討論

日時

平成29年9月22日 (金)

11:00～16:40

聴講自由
登録不要
日本語

場所

名古屋大学宇宙地球環境研究所 研究所共同館II 409号室

懇親会

17:00～ (飛び入り歓迎)
レストラン花の木 (立食)



お問い合わせ

植田宏昭 (筑波大学)
ueda.hiroaki.gm@u.tsukuba.ac.jp
中川毅 (立命館大学)
nakag@fc.ritsumeai.ac.jp

趣旨：

地質学的な証拠 (プロキシ) に基づく気候復元は、地球気候の過去・現在・未来の姿をシームレスに理解する上で、重要なピースである。とりわけ、限られた地点の独自のプロキシに基づくローカルな気候復元と気候科学に立脚した気候モデルによる気候再現の整理統合は、地球温暖化予測の精度向上・不確実性の低減、さらには異常気象に代表される気候変動の本質的な理解を、地球の歴史から学ぶという点において、既存の学問体系を超えた挑戦的なテーマである。

これまで独自に進展を遂げてきたコミュニティ融合の端緒を開くべく、隣接諸学会でも活躍する研究者の積極的な参加を期待したい。